



記者発表資料



令和3年7月21日
 教育委員会事務局
 生涯学習部文化財課
 電話 245-5963
 内線 8238

**特別史跡加曽利貝塚の解明に向け、今年も発掘を開始！
 ～発掘調査第2期2年目！中央窪地の調査がいよいよ本格化～**

千葉市では、平成29年度から令和元年度にかけて、貝塚としては日本初の特別史跡に指定された加曽利貝塚の本格的な発掘調査を半世紀ぶりに行い、縄文時代晩期の集落と大型住居跡の存在を明らかにしました（第1期調査）。

令和2年度からは南貝塚中央部を対象とした第2期調査を開始し、その2年目にあたる今年度は8月3日（火）から調査を実施します。半世紀の間、謎であった課題の解明につながる重要な調査であるため、調査の開始をお知らせします。

1 趣旨・目的

<経緯>

平成29年3月に、これまでの加曽利貝塚の発掘調査の成果を取りまとめた『史跡加曽利貝塚総括報告書』を刊行し、加曽利貝塚の全体像を示すことができた一方、集落と貝層の変遷の把握をはじめ、新たに解明すべき課題も明らかになった。

そこで、加曽利貝塚の構造や形成過程等を解明するため、発掘調査を新たに行うこととし、平成29年度から令和元年度にかけて加曽利貝塚の集落の終末期の様相の解明を目指した第1期の調査を実施した。

<目的>

令和2年度に着手した第2期調査では、南貝塚中央部の解明を目指した調査を行っている。南貝塚は貝層が径190mの環状に分布する環状貝塚で、中央部は貝層がない空白部になっているが、その用途に関しては諸説（注）が出されているものの、確定はしていない。

また、中央部は貝層分布域に比べ標高が低い窪地となっており、昭和39年に一部調査を行った際、この中央窪地を自然の窪地とみる説や縄文人が掘ったとみる説が出されたが、解決はされず、その後、半世紀の間、未解決の謎であった。

令和2年度は昭和39年の調査区を再発掘し、中央窪地の縄文時代の地層は周囲より約2.5m低くなっていることを確認した。

今年度は調査区を拡張して、中央窪地における縄文時代の構築物や遺物を調べ、窪地の用途解明に本格的に取り組む。また土壌や火山灰の研究者と共同して地層や火山灰を調べるとともに、縄文時代の研究者を招いた検討会を行い、中央窪地の標高が低い成因の解明を目指す。

<期待される効果>

令和2年度の調査で南貝塚の中央窪地は縄文人が掘削していた可能性が出てきて、長年の謎の解明につながる事が予測される。また、南貝塚の中央窪地の状況は関東地方の他の環状貝塚にも共通するため、本貝塚での解明は日本考古学に大きく貢献することが期待される。さらに、学芸員が行う現地ガイドや現地説明会は、市民が千葉市の歴史を再発見する機会となり、調査で得られた情報は今後の史跡整備や博物館の展示に役立てることができる。

（注）中央部の用途に関する説として、祭祀場説、作業場説、湿地説等がある。

2 実施概要

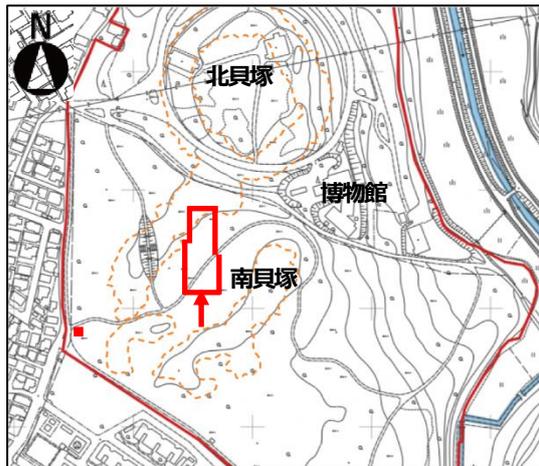
（1）調査期間

令和3年8月3日（火）～11月27日（土） 9:00～16:00

※日・月曜日、祝日、8月10～14日、9月21日、及び雨天の場合は調査休止

(2) 調査場所

特別史跡加曾利貝塚 南貝塚 1,669㎡



※ …発掘調査範囲 …貝層

令和3年度発掘調査の位置

現地の様子 (左図の矢印方向から撮影)

(3) 調査内容

- ア 範囲内に含まれる昭和39年調査区の再発掘
(調査区を拡張するため、昭和39年調査区の再発掘を行う)
- イ 中央窪地を中心とした調査範囲内の遺構(縄文時代の構築物)の確認・調査
- ウ 地層・火山灰の自然科学的検討、縄文時代研究者による検討

(4) 調査工程(予定)

- | | |
|------------------------|------------|
| ア 調査開始 | 8月 3日(火)～ |
| イ 昭和39年調査区の再発掘 | 8月上旬～ |
| ウ 排出土のふるいがけ作業 | 8月上旬～ |
| エ 中央窪地における遺構の確認・調査 | 8月下旬～ |
| オ 自然科学的検討、縄文時代研究者による検討 | 8月下旬～ |
| カ 記録作業等の終了 | 11月26日(金) |
| キ 現地説明会 | 11月27日(土) |
| ク 昭和39年度調査区と遺構の埋戻し | 11月29日(月)～ |
| ケ 撤去作業 | 12月24日(金) |

(5) 調査実施機関

千葉県埋蔵文化財調査センター 職員2名・発掘調査員2名・作業員10名 計14名体制

3 見学者への対応

発掘調査に関して広く知っていただくため、現地で現地ガイドや説明会等を開催する。

(1) 学芸員(発掘担当職員)による現地ガイド「フィールド・トーク」

ア 開催日時

調査期間中における発掘実施日の11:00～11:15(8・9月)

調査期間中における発掘実施日の14:00～14:15(10・11月)

※調査休止日、雨天中止の場合を除く。

イ 内容

調査成果の説明

ウ 参加方法

参加無料、事前申込不要

エ その他

ハンドマイクを使用して説明する等、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施する。

(2) 現地説明会（令和3年度調査成果の速報）

ア 開催日時

11月27日（土）①10:00～12:00 ②13:00～15:30

イ 内容

（ア）遺跡の説明、調査の目的の説明

（イ）調査成果の説明

ウ 参加方法

参加無料、事前申込制

※定員や申込方法等、詳細は、10月下旬に発表予定

エ その他

事前申込・定員制にする等、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施する。

4 情報発信

ホームページ及び現地掲示板で情報を定期的に発信する。

- (1) 以下の加曽利貝塚博物館ホームページの「発掘調査日誌」ページで、随時、発掘調査の様子を発信する。（※随時更新）

【URL】<https://www.city.chiba.jp/kasori/research/excavation/field-note/hakkutsur3.html>

- (2) 現地掲示板（※毎週更新）

ア 設置場所

発掘調査地点脇

イ 掲示内容

（ア）発掘調査の目的、概要

（イ）前週までの調査成果

（ウ）今週の調査予定

5 報道機関向け現地レクチャーの開催

現地において、報道機関向けのレクチャーを開催する。

- (1) スケジュール等

ア 日時

令和3年11月上旬

イ 内容

調査成果の説明と現地説明会の案内を行う。

- (2) 取材申込等

現地でのレクチャー等への参加を希望される方は、実施日の10:00までに文化財課（電話245-5960）へ事前にご連絡ください。

※レクチャー当日の集合場所 加曽利貝塚博物館入口

- (3) その他

現地説明会の詳細と併せて、10月下旬に発表予定

<参考>加曾利貝塚における過去の主な発掘調査

加曾利貝塚の史跡指定地内での発掘調査は平成26年度にも実施しているが、史跡の内容確認を目的とした本格的な発掘調査は昭和47年以来、半世紀ぶり（45年ぶり）となる。

昭和37年	北貝塚東側貝層部2か所の確認調査 (加曾利貝塚の重要性を確認し、保存運動を推進するための調査) ※堅穴住居跡や人骨を発見し、北貝塚が縄文中期～後期の集落であることを確認
昭和39年	南貝塚の貝層部全体を対象とした確認調査 (保存運動を推進するための確認調査) ※南貝塚が馬蹄形の形であることを確認したほか、住居跡や埋葬人骨を発見し、南貝塚が縄文時代晩期の遺構であることを確認
昭和40～43年	北貝塚の公園整備、博物館整備に伴う事前調査 (北貝塚貝層断面観覧施設、住居跡群観覧施設、旧大須賀家住宅移築などの整備に伴う調査)
昭和45～47年	市立老人ホーム建設に伴う予備調査 (南貝塚東側傾斜面一帯の遺構を確認するための確認調査) ※縄文前期～後期の住居跡などを発見し、傾斜面一帯も縄文集落であったことを確認したほか、坂月川に面する東側傾斜面先端を船着場と推定
平成元～2年	史跡整備に伴う事前調査 (南貝塚貝層断面観覧施設、復元集落などの整備に伴う確認調査)
平成24・26年	加曾利貝塚限界確認調査 (史跡の範囲を確認するための調査) ※史跡北側の集落の広がりを確認。これを基に平成28年度に追加指定申請
平成29年 ～令和元年	加曾利貝塚の構造や形成過程解明のための調査 (南貝塚、縄文時代晩期の遺構を中心とする発掘調査) ※直径1.2mを超える大形住居跡が見つかるなど、縄文時代晩期に至るまで房総半島屈指の大集落であったことが判明
令和2年～	加曾利貝塚の構造や形成過程解明のための調査 (南貝塚中央部の形成過程解明のための調査)